

あくまでも自分史として

# 「岳陽」と共に

第 3 号

発行日  
2023.5.15  
編集・発行  
井上講四／堂本彰夫  
※連絡先  
〒901-2225  
沖縄県宜野湾市  
大謝名 3-13-24  
教育協働研究所  
～岳陽舎～  
(井上講四宅)  
Tel:098-963-9282  
E-mail:  
gakuyou17@outlook.jp

## ○かの「広島」を、いかに総括すべきか?!

私が、広島大学の出身であることは、知る人ぞ知るところである！だが、今の私には（それまでの私はさらに）、そのことを、声を大にして言えない（言いたくない）!!そういうわだかまりみたいなものがあることを、ここでは告げおきたい。その理由については、当然ここでは書き切れないが、言うならば、そこは、「ほろ苦い」後期青春の舞台であったということである（ただし、それがあつたからこそ、その後の、そして、今の私があることは事実であるが!）!!

ところで、その広島に、例の古希同期会の仲間が、高校時代の修学旅行の思い出から、再度?訪れたいと、旅のプランを練っている!私としては、その仲間達との付き合いは、大変な難いと思つてはいるが（感謝もしている!）、いざ行くとなると、複雑な思いに駆られるのである!ちなみに、皮肉な?話ではあるが、私自身は、その広島への修学旅行には行つていない（野球部に所属していた私は、春の大会前でもあり、自由参加でもあつたので、行つていない!）。

とは言え、修学旅行の思い出は、確かに貴重なものであり、この年になつては、さらにその想いは募る（今思えば、残念であつた?）!しかし、一緒に行きたいが、私の思い出は、別なところで屈折する!!しかも、個人的には、数年前に、その最後の訪広?は済んでいる!一応のケリ?はついているのである!だから、今更、広島なんて...!!

ただ、こんな思いは、かの仲間達には伝えてはいないし、伝えようとしても、それは土台無理でもあろう（彼らにとつては、ある意味迷惑な話ともなる）!!困つたものではある!!まだまだ総括の時ではない?そういうことなのか?!

## ○振り返つてみると、私の人生は、何かがおかしい?

ところで、よくよく考えてみると、私の人生は、何かがおかしい?ふと気がつけば、私の居場所、と云うか立ち位置が、中心から離れていつてしまつていて!!言い換えれば、グループや所属している組織の周辺に行つてしまつていて自分がいるのである!!学会でも、県や市町村との関係も、そうであつたように思う!!もちろん、最後の琉球大学でもそうであつた（これは、学部長をやつたからでもあるが!）!

そして、さらに振り返つてみると、学生時代（学部も大学院も）もそうであつたし、以前の、東京の職場でもそうであつたように思う!!いつの間にか、周辺人?になつてしまふ私!!やはり、これはおかしい?私の生き方（生き様）が、いつの間にか、どこかで狂つてしまふ?その時、その時を精一杯生き、自分なりに必要だと思ふことを言い、そして、動いてきた（しかも、最初は喜ばれもした?）!!しかし、途中から?、野党?否?

その野党にもなつていない自分がいるのである!!だが、冷静に捉えれば、実は私の方は全然変わつていなくて、周りが変わつていつていられるのかもしれない!!そんな気がしないでもない!!極論すれば、私の方が、時代の流れ・周囲の状況に沿つて、臨機応変に（上手に?）変わつていつていられないのかもしれない!!無意識の内に、自ら、そうしてきたのかもしれない!!いずれにしても、私の人生、何がそうさせてきたのか?それが、かの守護（背後）霊のせいだとしたら、今更、何をか況やである!!そう思うしかない（笑）!!

## ○研究室が我が家（のベランダ）になつただけ?!

話が変わるが、8年前、大学の職を辞し、公務員宿舎を出なければいけなかつた私（選）であるが、沖縄を離れる話もなくどこからの誘いもなく本当は、そういう話があつたならば、動いていなくてもいい!!、さしあつては、住む家を探さなければいけなかつた!もちろん家を買ふとか、そういうことは考えていなくて、当座は賃貸のアパートか、マンションをということである、あちこち探したのであるが（本当に探して歩いた!一年以上か?）、結局は見つけれずじまつた。

金額とか立地とかということもあつたが、一番の理由は、私の我儘?であつたのかもしれないが、誰もが気軽に訪ねて来られる場所が欲しかつたのである!そのことを、借りる条件の一つにしていたのであるが、仲介の不動産屋にそのことを話すと、かなり難しいというようなことでもあつた（隣人とのトラブルの危惧?大家さんの意向?）!要は、大学での研究室のように、誰もが、気軽に出入りできるような場所を確保しなかつたのである（研究室は、ゼミ生は当然であるが、他の学生、はたまた大人の人の出入りも頻繁にあつた!否、それを、私は望んでいたのである!）

しかし、事態は、ある時一変した!私の奥さんが、多分?業を煮やしてのことだろう?一軒家の売り物件を、ネット上で見つけたのである!借りるといふことしか頭になかつた私であるので、かなり動揺?したが（一度にかなりの出費覚悟?肝っ玉が小さい?）、その物件を見にいき、即決で決めたのである（もちろん先に決断したのは奥さんである!その決断力は、見事であつた!）。それが、現在住んでいる、宜野湾市大謝名の、この家なのであるが、何はともあれ、このベランダからの眺望が気に入つたのである（北向きではあるが、そこからの、東シナ海の眺めは格別であつた!）。もちろん賃貸ではないので、誰にも気兼ねする必要はない!自由に人が呼べる、来てもらえる（駐車場も狭いがある）!爾来、この眺望に何度も癒された（台風時は困つたが!そして飛行機の騒音も!）。そして、人も来てくれた!この家と眺望がなかつたなら、本当に私は困つたであらう!されど、ここ数年、コロナが水を差している!!果たして、この先は...（井上）

『最後の？伊江島行 蘇る数々の思い出！』

ゴールデンウィーク前の4月末、一泊二日の日程で、もう訪ねることもないだろうと思っていた、北部離島の一つ伊江島に、我が奥さんと二人で出かけた。直接の目的は、まだ1回も見えていない、同島の「ユリ(まつり)」を見に行くことであった。天気は、あいにくあまり良くなかったが、島の北海岸にしつらえられた、広範囲のユリ畑には、鉄砲百合をはじめ、色とりどりの花が植えられていた(また一面の開花とは言えなかったが!)。会場は、GW前のウィークデーでもあったので、人出は少なかつたが、テント張りの出店や趣向を凝らした写真コーナー等があり、ピークの?GWの時は、かなりの賑わいになるだろうと思いつながら、奥さんとの、久しぶりのデート?を楽しんだ次第である!!

ところで、実は、この伊江島(村)は、現役時代には学生達と何度も訪ねて、島(村)教委のみなさんには、その都度大変お世話になったところである!ゼミ(合宿)出張研究会、さらには学部行事(ユークロ)、そして、何年間かは、社会教育実習生の受け入れと...しかも、そこには、数々のドラマ?もあつた!思い出せば、それこそきりがないが、今回も、宿を世話してくれたり、一日車を貸してくれたりと、いたれり、つくせりであつた!

当時お世話になつたNさんやUさんが、それぞれ村長、副村長、そして、Sさん(当時の社会教育主事)が福祉課長と、それぞれ島(村)のキーパーソンとなつており、また、当時学生であつたY君が、縁あつて同村役場職員となり(結婚もそこ)、今回は、彼が、歓迎会まで仕切ってくれた。そして、翌日には、沢山の土産を買って、港まで見送りにきてくれた!本当に感謝・感激であつた!人(伊江島)の情けは、不滅である!!

最後に、もつてつべんまでは登れないと思つていた現に、前回は断念していた!、かの「たっちゅう(塔頭)」に登れた!これが、今回の、もう一つの喜びでもある!

〈短歌に託して懐かしき、あの街、あの島!〉

・ああ広島や 広島や

我が後期青春の 花舞台 いかにも立つ(断?)

・どこかで狂う 私の人生?

何がそうさせるのか? そもそも守護霊のせい!!

・研究室が ベランダに 替わつただけ!!

されどコロナが 水を差す!

・塔頭に 登れて嬉し 伊江島行

ユリの香りと 人の情けも

〈特別コーナー〜堂本彰夫の古代史旅枕③〉

○隠されている?「木(紀ノ姫)氏」の存在!!

さて、改めて、その「老松」であるが、実は、「松」は「木」偏に「公」!すなわち「木の公(のみのみ)」と読める!!だから、木(紀ノ姫)氏を示す(しかも「老」?が被さつていゝ?)!!その指摘を見た時は、最初は偶然、否、言葉遊びかとも思ったが、ひよっとしたら、それも有り得る?そう思つたわけである(没落しかけている木の公?)!

と言うのも、紀(伊)氏は、もちろん現在の和歌山県を本拠地?とした古代豪族ではあるが、その出発地(直前のそれ?)は、北西部九州の「基肆(きし)」地方と考えられ、かの「貴国」(百済紀にある!)は、そこにあつた!!ちなみに、その貴国は、半島諸国には、当初知られておらず(途中から出現していた?)、新たな国(勢力)であつた(そう考えれば、さらに辻褄が合うのである?)!!

しかるに、その「木ノ紀氏」であるが、問題は、それ以前はどこにいたのか?そして、本来の、その出自は?その解明が、新たな頭痛の種ともなつてくるのである!!何故なら、その「木ノ紀氏」は、そもそも「武内宿禰系」諸族(半島系渡来氏族/伽耶・新羅系?)の一つと考えられるからである(半島南端部の前方後田墳の存在は、その証左でもある?)!!

ところが、最近知つた情報(新説?)によれば、彼らは、中国江南にあつた「呉国」(三国時代の「呉」ではない!)の王族の末裔で、BC5世紀頃に九州中部(肥後菊池郡山門)に漂着していた「姫氏」であるというのである。そして、その後、彼らは、同じ江南出身の、いわゆる「熊襲(球磨會於)族」と合体して、中南部九州から攻め上がり、北部九州までをも席卷していた(地下式横穴墓や装飾土墳の分布?)!!

そして、その子孫が、3世紀末の「邪馬壹(台) 国女王卑弥呼」や5世紀の「倭の五王」(讚・珍・濟・興・武 達であつた?)!そしてまた、かの武内宿禰は、その「熊襲族の棟梁(弥五郎どん?)」でもあつたというのである!!実際、紀(木ノ)氏と熊襲族は、ある時期合体したとみえ、途中から、『紀』に記す「厚鹿文(あつか)」「注鹿文(さか)」、など、熊襲族の首長とされる名が連ねられているという(姫氏・松野連氏系図)より)。

しかもまた、その紀(木ノ)氏が移動・進出していた?北西部九州には、鴨氏(これも熊襲族?先の菊池市には、加茂川や賀茂神社がある!)、日下部(ひかた)氏や内(うち)氏(武内宿禰の直系?)、天(あま)族の久米氏らが進出していたことをうかがわせる地名や川の名も数多くあるという(しかも、隼人もいる!)!!果たして、これらが、記紀に言う「熊襲」なのであるか?あまりにも複雑である!!

ということ、このように、通説では、熊襲とか隼人とかという中南部九州の部族は、いわゆる蛮族(隼人)の場合、若干抜いて違つが!とされ、大和朝廷や九州王朝とは、一線を画すものと思わされていたのであるが、紀(木ノ)氏と同一化している、そして、その紀(木ノ)氏が、「倭の五王」や武内宿禰とも関係がある!!であれば、これまでの認識を大幅に変えなければいけないのである!!ただし、実は、頭痛の種は、これだけではないのである!!

(つづく) (堂本)

〈編集後記〉今回も、様々なことを書いたが、やはりスペースが足りない!!しかし、多くしても、大変である!しばらく(当分?)は、これでいくしかないだろう!!

(井上ノ堂本)